

2025年度 決算説明会

2026年度事業概況・新中期経営計画概要

Enhancing planetary health

2026年5月14日

日揮ホールディングス株式会社

代表取締役会長兼社長CEO

佐藤 雅之

目次

総合エンジニアリング事業

1. 2026年度の受注目標
2. マーケット環境の概況

機能材製造事業

1. 2026年度目標とマーケット環境

新中期経営計画「BSP2030」の概要



総合エンジニアリング事業

Enhancing planetary health

1. 2026年度の受注目標

LNGを中心に案件が豊富に存在。
「利益確保と実現可能性」「リソース配置」「将来の糧」を軸に判断

2026年度
連結受注目標： **1兆7,400億円**

(換算レート：1米ドル=150円)

【主な注力案件】

分野	海外：1兆6,000億円	国内：1,400億円
エネルギー	・カナダ LNG増設 ・モザンビーク FLNG ・パプアニューギニア LNG 等	・SAF ・メンテナンス業務 等
一般産業ほか	・東南アジア データセンター 等	・医薬品製造工場 ・食品関連工場 ・原子力関連工事 等

2. マーケット環境の概況

海外

【エネルギー分野】

- エネルギー安全保障や脱炭素社会への現実的な移行の観点から、**天然ガス（LNGを含む）**の需要は**中長期的に継続する見通し**。北米やアジア、東アフリカなど**幅広い地域でLNG案件が豊富に存在**。
- 水素・アンモニア、SAF、CCSは、検討・計画段階の案件は存在するが、規制導入や経済性に左右され、多くが実証段階にとどまっており、設備投資の実現は限定的。

【一般産業分野】

- **半導体関連分野**や**データセンター**等の設備投資計画が東南アジアなどを中心に着実に進展。

国内

- **SAF**をはじめとしたサステナブル案件は、制度設計の構築待ち。投資計画の後ろ倒し傾向が継続。2030年のSAF導入目標達成に向けて、今年度に案件実現に向けた動きが進展することを期待。
- ライフサイエンス分野は、**既存の医薬品関連工場の改造工事**を中心に需要が堅調。
- **食品関連分野**への設備投資も、顧客による計画検討が進展。
- 原子力分野は、原発再稼働に向けた動きもあり**低レベル廃棄物処理施設関連工事**をはじめ、需要が堅調。
- **メンテナンス業務**についても毎年一定程度の需要。

中東地域における緊張状態の長期化に伴うマクロ経済への影響や顧客動向を注視

- 遂行中EPC案件：資機材の価格上昇や長納期化、輸送費の上昇などの影響
- 受注注力案件：顧客の最終投資決定（FID）が後ろ倒しになる可能性

機能材製造事業

Enhancing planetary health

1. 2026年度目標とマーケット環境

2025年度実績/
2026年度目標

売上高

2025年度実績

569 億円

2026年度目標

555 億円

触媒・ファインケミカル

日揮触媒化成（C&C）

<マーケット環境>

- 海外では燃料需要の増加などを背景に**石油精製触媒の需要が堅調**。
- 半導体やエレクトロニクス市場が回復傾向**にあり、ハードディスクやシリカゾルを中心とする**ファインケミカル製品全般で需要は堅調**。**化粧品材**も国内外で需要が回復傾向。

<2026年度方針>

- 触媒分野は、**海外顧客への拡販、低・脱炭素分野向け製品の展開**を推進。
- ファインケミカル分野は、**半導体用研磨材などの販路の拡大や多用途展開**を目指す。

マーケット環境/
2026年度の方針

ファインセラミックス

日本ファインセラミックス（JFC）

<マーケット環境>

- 半導体市場は**生成AI向け**を中心に**順調に拡大**し、半導体製造装置関連分野が好調。
- データセンター向け**電子材関連製品の**需要が増加**。
- 中国市場向けEV用**高熱伝導窒化ケイ素基板の需要は引き続き堅調**だが、欧米市場向けも一部回復傾向。

<2026年度方針>

- 高熱伝導窒化ケイ素基板をはじめとする各製品分野において**需要動向を踏まえた生産能力の拡充、生産体制の合理化・内製化とコスト構造の改善**、ならびに**原材料の安定確保を推進**。

中東地域における緊張状態の長期化に伴う、原燃材料の調達制約や価格上昇の影響を注視

新中期経営計画「BSP2030」の概要

(2026年度～2030年度)

Enhancing planetary health

戦略等の具体的な内容等は、別途開催する詳細説明会にてご説明いたします。

「新中期経営計画のオンライン詳細説明会」

日時：2026年5月27日（水）14:00～15:00（予定）

トップメッセージ ～“技術をつなぎ、一歩先のソリューションで課題に挑む協働者”へ～

コロナ禍を経て新たな局面を迎えた世界経済は、その後も地政学リスクの高まりや脱炭素化を巡る潮流の変化など、先行きの見通しが極めて難しい状況が続いています。足元では、中東地域での武力衝突を背景に、ホルムズ海峡を巡る動向が世界経済に深刻な影響を及ぼしつつあります。

今回策定した中期経営計画「Building a Sustainable Planetary Infrastructure 2030」（BSP2030）では、こうした不透明な事業環境だからこそ、顧客に寄り添い、その課題をいち早く捉え、先回りしたソリューションの提案を通じて、ともに課題に挑んでいくことを基本姿勢としています。複数のビジネス領域にわたって多様な技術を有する当社グループは、社内外の最適な技術を繋ぎ合わせて新たな価値を提供できる高い適応力を強みとしています。なかでも、当社グループのコア事業である総合エンジニアリング事業は引き続き収益の柱として極めて重要な位置づけにあります。持続的な競争力強化を通じて、今後も堅調な需要が見込まれるLNG分野を中心に、安定的な収益獲得を目指します。また、この5年で第2の柱としての存在感を確立してきた機能材製造事業についても、事業拡大への挑戦を継続していきます。

こうして生み出される収益は、DOEを軸とする安定的な増配への取り組みを開始しつつ、総合エンジニアリング事業におけるLNGに次ぐ新たな成長領域の育成、機能材製造事業の成長加速や、ソリューションビジネスという新たな事業への挑戦、そしてこれらの事業推進を支える人的資本への再投資へと振り向けていきます。これにより、当社グループが持続的に成長し、さらなる飛躍を遂げるための強固な基盤を構築してまいります。

代表取締役会長兼社長CEO

佐藤 雅之

エグゼクティブサマリー

2030年に
目指す姿

技術をつなぎ、一歩先のソリューションで課題に挑む協働者

重点戦略

1

総合エンジニアリング事業の
持続的な競争力強化

- 遂行体制の強化による収益基盤の安定化
- EPCビジネスの進化に向けた挑戦
- マーケットへの適応と戦略的事業育成の両立

2

機能材製造事業の
成長加速

- 半導体関連市場での販売拡大
- 開発力の強化による提案型案件の創出
- 海外市場の積極的な開拓

3

ソリューション
ビジネスの拡充

- 強みを活かしたメニューの進化
- 新たな事業の立上げへの挑戦

重視する経営指標

営業利益 **600億円**

当期純利益 **500億円**

ROE **10%以上**

経営基盤のさらなる強化

- 人的資本の強化
- 成長戦略実現に向けた
投資と資本政策

個人と組織の学習が連動し、知とノウハウの循環を通じて事業戦略の実現と持続的な成長へ

- ① 強固な財務基盤維持(自己資本比率50%)、② 成長投資の推進(2,800億円)、
③ 株主還元強化(DOEへ変更)のバランスを取りながら、さらなる企業価値向上へ

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

日揮ホールディングス株式会社
ファイナンス・IRオフィス IRユニット
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112
E-mail : ir@jgc.com